

3-②. 市民活動の場の支援(CANVAS谷町)事業

— 2013年4月のオープンから丸4年。ボラ協らしい民設民営の拠点を運営！

2013年4月よりCANVAS谷町(大阪市中央区)を管理・運営。CANVAS谷町では、フレックスデスク7団体、コーディネーションデスク2団体が活動している。CANVAS谷町の自主財源でもある貸会議室の平均稼働率は、小会議室 45.9%、大会議室 43.4% (大会議室半分利用含む)、たたみスペース 18.9%、情報交流エリア 8.5%であった。

1. CANVAS谷町を拠点として活動する団体

CANVAS谷町を拠点として活動する団体に、フレックスデスク、コーディネーションデスク、レターボックス、ロッカー小・中・大を、年度または半期で貸出している。

(1) フレックスデスク

特定の事務所を持たず、週数回程度の事務所作業や活動を進める「事務所機能」を求める団体にとっての利便性をもったデスクを提供。団体同士が「事務所」をシェアしながら、拠点に集まる人、団体や支援者と出会い、共に資源や知恵を共有できる場を作っている。

■フレックスデスク利用団体一覧(7団体・50音順)

特活) 大阪市計量協会、大阪手びきの会、関西音声サポート、関西広域避難者支援センター、創作サポートセンター、地球コード研究会、まるっと西日本(東日本大震災県外避難者西日本連絡会)

(2) コーディネーションデスク

フレックスデスクよりも利用頻度が高く、活動・事業でコーディネーションや電話相談を行なう団体に対して、デスクを提供している。

■コーディネーションデスク利用団体一覧(2団体・50音順)

大阪セルフヘルプ支援センター、特活) キャンピズ、

(3) レターボックス

対外的な連絡先(郵便受)を持ちたい団体に対して、レターボックスを貸し出している。

■レターボックス利用団体一覧(23団体・50音順)

特活) いくの学園、ACoA Stories/大阪グループ、ACODAローゼズ、大阪交通遺児を励ます会、特活) おおさか行動する障害者応援センター、特活) 大阪市計量協会、大阪セルフヘルプ支援センター、大阪手びきの会、大阪帆船と国際交流の会(SAIL' O'), 大阪筆記通訳グループ「ぎんなん」、おはなしグループ綿の花、関西音声サポート、関西広域避難者支援センター、特活) キャンピズ、くつろぎステーションつばさ、コーポラティーバmaid、創作サポートセンター、地球コード研究会、なにわ語り部の会、福祉カウンセリング協会、プチ大阪兄弟姉妹会、まるっと西日本(東日本大震災県外避難者西日本連絡会)、ワーキング・ウィメンズ・ネットワーク

(4) ロッカー

CANVAS谷町を活動の拠点とし、活動・事業で荷物の保管が必要な団体に対しロッカーを貸し出している。

■ロッカー利用団体一覧(20団体・50音順)

ACoA Stories/大阪グループ、ACODAローゼズ、大阪交通遺児を励ます会、特活) 大阪スタタリングプロジェクト、大阪セルフヘルプ支援センター、大阪手びきの会、大阪筆記通訳グループ「ぎんなん」、関西広域避難者支援センター、ギャマノン、特活) キャンピズ、くつろぎステーションつばさ、コーポラティーバmaid、手話サークル「つくし」、創作サポートセンター、地球コード研究会、中卒・中退の子どもをもつ親のネットワーク、なにわ語り部の会、福祉カウンセリング協会、プチ大阪兄弟姉妹会、まるっと西日本(東日本大震災県外避難者西日本連絡会)

2. CANVAS谷町で実施された様々な動き

(1) CANVAS谷町のデザインチーム「たにまちっく」の活動

「CANVAS谷町」に全国から集まる市民活動情報を分かりやすく来館者に伝えることや、心地の良い空間を作り、さまざまな人の居場所にする、さまざまな団体、人の橋渡しをすることを目的として活動をしているチーム。CANVASのレイアウトを検討、情報交流エリアの利用ガイドの作成やCANVASに市民が集うきっかけづくりとなるイベント企画開催の検討を行った。

(2) 市民活動スクエア「CANVAS谷町」レイアウト変更・家具入替

2016年3月に情報交流エリアの机を木製に置き換えたことを受け、CANVAS入口付近のチラシラックを長机からコンパクトな木製ラックへと入れ替えた。木製品で統一したことにより、木の温かみを感じられる空間へと変化し、入口付近の動線も広く取ることが可能となった。



▲収納量も多く、手に取りやすい雰囲気

3. CANVAS谷町の全体的利用状況

人と人がつながったり、市民活動に関する情報を入手できることはCANVAS谷町の重要な機能のひとつである。情報交流スペースでは、市民活動に関するイベント、ニュースレター、ボランティア情報などを提供した。

同時に、NPO支援の一環として印刷機や紙折り機などをワークスペースに設置しているが、印刷機・コピー機の利用は522件(前年比83件増)であった。

(1) 貸会議室の月別稼働率と利用主体別割合、利用者数

貸会議室はNPO支援メニューの一つであるとともに、CANVAS谷町の大きな自主財源でもある。利用主体別に利用実績を見ると、パートナー登録団体が59.6%、大阪ボランティア協会が37%を占めた(図3-5)。一般利用は2.2%、協会の個人会員利用が1.1%である。年間の平均稼働率は、小会議室45.9%、大会議室43.4%(大会議室半分利用含む)、たたみスペース18.9%、情報交流エリア8.5%であった。

会議室利用者は延べ13,639人(前年比608人増)であった。月平均1,136人の利用となる。

図3-5 利用主体の割合

一般, 2.2% 会員, 1.1%

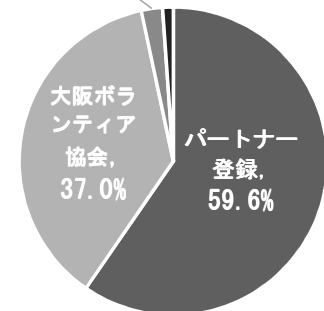


図3-6 貸し会議室の月別稼働率(折れ線)と利用人数(縦棒)

